

健康づくり 生きがいづくり 友だちづくり まちづくり

友の会だより

中野共立健康友の会・広報委員会発行
〒164-0001 中野区中野5-45-4

Eメール: ken_sosiki@kenyu-kai.or.jp
Tel:03-3386-9139

薬剤師募集中!

薬剤師さんをご紹介ください。

中野・杉並に7薬局を展開

青葉調剤薬局

中野区中野5-47-10

3389-7110



サークル等の中止のお知らせ

サークル等の再開は、①マスク着用・消毒、②3密の回避、④間隔の確保、⑤場所の確保などの基準を考慮し、法人や病院・診療所など関係するところと協議しながら、暫時再開を進めてきました。しかし、東京での新型コロナウイルス感染者の増加にともない、病院・診療所の施設が使用できなくなった関係で、再度、全体として中止となりました。

今後、感染の状況を見ながら再開できるか判断していきたいと思っております。

1945年、すぐ近くの港にロシアの船がきたので、急いでかくしてあったお米でご飯を炊いて、おむすびを作り、リュックの中に私とおむすび等を入れ

たので、食糧難は経験していません。父は、蔵にありました。私の家は農家ではなかった。富山も福井も空襲にあつて、石川県は不思議と空襲もなく、私の身内も村の人も戦死した人はいないので、怖い思いや悲しい思いはしていません。た



中野区上高田 亀田 朗子 (75歳)

戦争は絶対反対 「平和が大切！」

家族みんなで山の方へ逃げたのだそうです。そのロシアの船が沈没し、船の中にコウリヤン(私はどういふものかわかりませんが)が積まれていて、海水を含んだコウリヤンをみんなに分けて、それを洗って乾かして、まんじゅうを作って食べたのだそうです。全然美味しくなかったが、お腹が空いていたので、みんなで食べたとの事でした。戦争中の事は何も知りませんが、この話は何回も聞かされたので、自分で経験したように覚えていきます。



「平和が大切！」みんなで叫び続けていきました。戦争は絶対反対です。被爆者として苦しめられた。長崎には原爆が落とされ、お父さんを戦争で亡くした人がいました。また、広島から九州に向かっていた学童疎開隊馬丸は、敵の潜水艦の魚雷攻撃を受け、わずか10分程で沈没。児童780名含む1500余名が犠牲になり、その9割以上が帰らぬ人となった。疎開は国策で学童は半強制的だった(記念館資料より)。私の義兄の母と弟も同じ時期、沖繩より大阪に帰る船がアメリカ軍艦の攻撃を受け沈没、海の底に眠っている。何の罪もない人達が、犠牲になる核や戦争はいらない! 「命(ぬち) どう宝」。今も沖繩に米軍基地が集中し、事件・事故・騒音や環境問題が県民に影響を及ぼしている。

「友の会だより」6月号のパズルの答え「ミンナゲンキ(みんな元気)」でした。応募者数40通中、正解は35通でした。抽選で5名の方々に図書カードを贈呈いたしました。おめでとうございます。



中野区上高田 小山 民 (91歳)

平和 戦後75年 語り継ぐ 特集 平和への思い

昭和16年(1941年)、私は石川県の田舎で女学校の一年生でした。勤

所「で鉄を磨く作業の毎日。勉強なんか殆どしてません。富山も福井も空襲にあつて、石川県は不思議と空襲もなく、私の身内も村の人も戦死した人はいないので、怖い思いや悲しい思いはしていません。た



中野区中野 鈴木 加代子 (75歳)



今年も平和を願う8月がめぐってきた。私の両親は沖繩出身。沖繩には叔母や従兄達がいます。昨年沖繩に行ったおり、はじめて

区民健診を早めに受けましょう

各区の健診が新型コロナウイルス感染拡大の関係で、開始が遅くなり、新宿区は6月から始まっていますが、練馬区が7月から、中野区、杉並区は8月からの開始となっています。しかし、終了は来年の2月までとなっています。早めの受診をお勧めします。

中野共立診療所健診センターで受診の場合、感染防止対策として完全予約制でお願いしています。

お問い合わせ: 共立診療所健診センター
電話: 03-3386-9106

「いつも封筒を配るだけだった方が、電話したところ亡くなっていることが分かった。緊急事態解除後、あいさつに伺った。ご家族から話を聞いたところ「ずっと施設に入っていたが、共立診療所にかかるところになり、リハビリをしたところ、在宅に戻れることに。往診もしてもらい、本人の希望をかなえ在宅で看取ることができた。とても感謝しています」と。

「ハガキアンケート」で、みなさんの様子をお伺いしています。また、中野共立健康友の会では、機会を見て、友の会会員さんの状況を伺う電話かけにも取り組んでいけたらと思います。

新型コロナウイルスの感染状況が東京では、日に日に増えてきています。また、気軽に外に出られない状況が懸念されますが、御隣近所、友人に電話でも「声をかけてあって」この新型コロナウイルス禍を乗り越えていけたらと思います。

